

## TOPIC | 1 | 住宅販売の現場でメタバース活用が拡大

住宅販売の現場でメタバース活用の動きが拡大している。メタバースは、VR(仮想現実)技術を用いた仮想空間。昨今の技術革新により、多くのユーザーが同じ仮想空間に集まることができるようになり、新たなコミュニケーションの場として注目されている。

大和ハウス工業は、デジタル上の住宅展示場「LiveStyle PARTNER」の登録会員専用のコンテンツの一つとして、「xevo Σ」や「Lifegenic」など主力の住宅商品を「メタバースVRモデルハウス」で体感できるサービスの提供を2022年4月からスタートした。

「LiveStyle PARTNER」では、顧客へのアンケート結果などを元に、「右脳派」、「左脳派」、「予算重視派」の3つのペルソナ像に分け、それぞれの顧客に響くように、カスタマ

イズした情報を発信。また、閲覧状況に応じて、メール・チャット・セミナーでデジタルリレーションを図る。さらに、ゲーム感覚で楽しく家づくりを楽しめる仕組みとして「メタバースVRモデルハウス」を展開している。

JIBUNHAUS.は、メタバース時代を見据え、ゲーム/アプリの開発を行うスパイラルセンスと協同で、デザイン企画住宅ブランド「ジブンハウス」の規格住宅を内部まで再現したバーチャルモデルハウスを開発し、提供を開始した。ゲームコントローラーを使用し、家の中や外を自由に歩き回り、仮想空間上で暮らしを疑似体験できる機能を搭載した。また、将来的に、住宅の3DCGモデルをインターネット上で販売する「メタバース住宅事業」の展開も視野に入れている。

## TOPIC | 2 | ソーラーカーポート新商品が充実 蓄電池併用で災害時も安心

ソーラーカーポートの新商品開発が活発化している。脱炭素社会の実現に向け、太陽光発電設備の普及拡大に期待が高まっている。一方で、日照時間の少ない地域や、屋根の面積の制約から、屋根へのパネル設置のメリットを十分生み出せないケースがある。こうした場合の選択肢として、太陽電池モジュールのメーカー各社は、ソーラーカーポートの新商品を相次ぎ発売している。

Upsolar Japanは2022年4月、蓄電池をセットにし付加価値を高めたソーラーカーポート「Trinity(トリニティ)」を発売した。同社によると、2台分の駐車場スペースにソーラーカーポートを設置することで、住宅の屋根にパネルを設置した場合と同程度の発電量が見込めるといふ。また、蓄電池は自社生産のため、低価格の販売が可能。一般的に蓄電池は価格の高さがネックになり、普及が進まないといわれているが、低価格化により導入のハードルを下げた。

ネクストエナジー・アンド・リソースは、両面発電モジュールを採用したカーポート「Dulight(デュライト)」の新型モデル



Upsolar Japanのソーラーカーポートと蓄電池がセットになった「Trinity(トリニティ)」

を発売した。従来品よりも一枚当たりの出力を大幅にアップした大型モジュールを採用。また、設計の変更を行うことで、従来に比べて奥行が短くなり住宅の駐車場に設置しやすくした。

インリー・グリーンエナジー・ジャパンは、国土交通省が定める「飛び火認定」を取得した日本初の屋根一体型のソーラーカーポート「MOENZO(燃えんぞう)」を発売した。建築基準法で定められた防火地域(市街地、駅周辺など)への設置が可能。建物密集地域でも安心して利用できる。

今知りたい情報がここにある  
住生活産業のための  
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online Premium  
ハウジングトリビューン オンライン プレミアム  
https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/